トヨタ自動車株式会社
2023年8月発行（第62号）

ウェルウォーク通信

～ウェルウォークサークルによる取り組み～

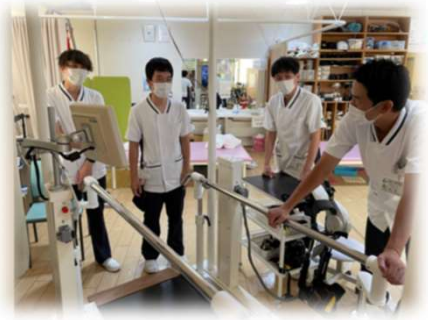
日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。
今回は、『善常会リハビリテーション病院様の取り組み』についてご案内致します。

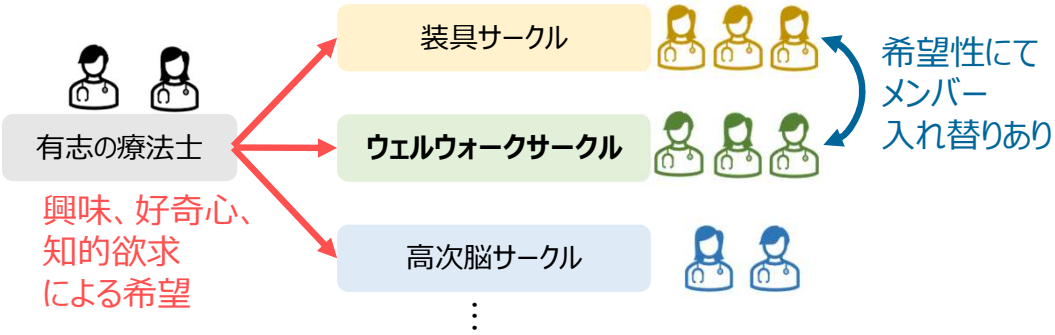
善常会リハビリテーション病院（愛知県名古屋市南区）

病床数：回リハ2病棟　計95床
PTスタッフ数：32名（ウェルウォーク操作可能PT：21名）
【ウェルウォークの運用状況】
導入時期：2017年9月
実施人数：205名（脳卒中：9割）
練習頻度：3単位/日　5日以上/週

ウェルウォークサークルにおける取り組みの紹介など

当院では、有志の療法士が様々なサークル活動を行なっています。経験年数に関係なく、誰でも希望で活動できるように**敷居を下げる**ことを目的に、「ウェルウォーク係・班」ではなく、敢えて「サークル」としています。





① 症例検討：患者様の問題点を共有し、アシスト設定や介助方法などを検討する。
【方法】
・担当療法士と介入目的を共有し、録画映像から課題を抽出、アシスト設定などを提案する。
・提案した内容が適切か確認するため、サークルメンバーが同席する。
・担当看護師、介護士に見て頂く機会を作るように時間を工夫する。
② 文献抄読：毎月、1文献を持ち寄り、サークルメンバーで最新の情報を共有する。
③ 研究活動：ウェルウォークを実施する中で生じた疑問点は積極的に研究活動へ移行し発表する。
【研究発表実績（総件数：7件）】
・重度片麻痺患者に対する長下肢装具とウェルウォーク歩行時の筋活動の比較
・運動失調により歩行困難となった症例に対するウェルウォークWW-1000を用いた効果

サークルメンバーより一言

当初はリハビリテーション部のスタッフに対してウェルウォークを知ってもらう活動が中心でしたが、地道に活動を続けた結果、徐々にリハビリテーション部以外の他部門にも浸透してきました。看護師や介護士にも担当患者様がウェルウォークを実施している様子を見て頂くこともあり、他職種からも「あの患者様はウェルウォークで歩く練習しないんですか？」と声をかけられる事もあります。

また、介入ケースとして重度片麻痺患者様への介入が多かったですが、最近では軽度麻痺であっても初期接地（IC）を膝屈曲位で迎えてしまう患者様や、運動失調により筋出力調整に苦労するケースにも積極的に使用するようになり、効果があると感じています。

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口〈clinical-ww@mail.toyota.co.jp〉